



日高さんと田邊さんが作ったベビーカーの試作品

開発のきっかけは、小さな子を持つ母親が大学に送った1通のメールだった。「冬道で使えるベビーカーはないでしょうか」。さまざまな機能を備えたベビーカーが売られている中、冬道に対応したものはなかったのだ。

こうした要望を形にしよう。講義での呼び掛けから、日高さん、田邊さんから学生たちは、それぞれのアイデアを盛り込んだベビーカーを試作することになる。「自分がお母さんになった気持ちでアイデアを出しました」。日高さんは、段差を楽に越えられる足踏み装置や赤ちゃんの防寒フードを、田邊さんは、安定感を高めつつ母親の進路を踏み固める3つのローラーを提案。母親との意見交換会や実験を重ね、約2カ月かけて試作品を完成させた。

雪国ならではの発想。 冬道でも安心して使える ベビーカー

日高さん・田邊さんが生み出したもの

雪道でも安心して 走行できる ベビーカー

雪道の段差への対応や赤ちゃんの寒さ対策など、使う人のことを考えた工夫を凝らしている。実物大の試作品を製作した段階で2人の研究は終了。商品化には至っていないが、大学での研究は継続している。



札幌市立大学デザイン学部
日高 麻里さん、田邊 優さん

生活者の視点で、より使いやすく、魅力的な製品の企画などを学ぶ「製品デザインコース」に所属する大学生。講義で雪国ならではのベビーカーについて研究。平成23年6月には日本デザイン学会に出場した。



(左) 実際にベビーカーを使用しているお母さんから意見を聞き、製作に生かした。
(右) 日高さんのベビーカー。足で踏むと前輪が上がる仕組みになっている。



札幌市立大学デザイン学部ホームページ www.scu.ac.jp/design

アイデアには、まちを豊かにする力がある

今回は、アイデアが磨かれ、私たちの心や暮らしを豊かにする力になっていく事例を紹介しました。札幌に住む192万人の市民の誰もが、こうしたアイデアを生み出す可能性を秘めています。そして、札幌には芸術や音楽に触れられる施設やイベントなど、人々の感性を刺激する、さまざまな環境が整っています。市は、ここで生まれたアイデアを大切に、より魅力あふれるまちを目指す「創造都市さっぽろ」の取り組みを進め、創造的な活動を応援していきます。皆さんも人々が生み出すアイデアに積極的に触れるとともに、そこで得られた発想を普段の生活に生かしてみませんか？